

尼崎市教育委員会 5月臨時会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和2年5月11日 午後3時34分～午後4時58分

2 出席委員及び欠席委員

出席委員等	教育長職務代理者	礪田 雅 司
	委 員	仲 島 正 教
	委 員	徳 山 育 弘
	委 員	太 田 垣 亘 世
欠席委員等	教 育 長	松 本 眞

3 出席した事務局職員等

教 育 次 長	白 畑 優
管 理 部 長	梅 山 耕 一 郎
施 設 担 当 部 長	山 口 泰 範
学 校 教 育 部 長	東 政 信
学 校 教 育 部 次 長	宮 原 久 弥
事 務 局 参 与	北 垣 裕 之
学 校 給 食 担 当 部 長	山 木 聡
教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長	平 山 直 樹
社 会 教 育 部 長	安 田 博 之
企 画 管 理 課 長	中 島 章 仁
学 校 教 育 課 長	平 岩 健 太 郎
保 健 体 育 課 長	赤 松 利 信
学 び 支 援 課 長	桐 山 勉
ス ポ ー ツ 推 進 課 長	苅 田 昭 憲

日程第1 議事

(1) 報告第2号 令和2年度尼崎市一般会計教育関係補正予算について

日程第2 協議・報告

(1) 新型コロナウイルス感染症対策に係る既実施取組について

(2) 令和元年度あまっ子ステップ・アップ調査の結果について

午後3時34分、礪田教育長職務代理者は開会を宣した。

礪田教育長職務代理者

本日の日程につきましては、配布いたしております日程表のとおりです。

日程第1「議事」の「報告第2号 令和2年度尼崎市一般会計教育関係補正予算について」及び、日程第2の「協議・報告」の「新型コロナウイルス感染症対策に係る既実施取組について」は、会議規則第6条の2第1項第2号、すなわち『教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する事件』に該当するため、公開しないことが適当であると考えますが、いかがでしょうか。

教育委員

異議なし

磯田教育長職務代理者

異議なしと認めます。よって、「報告第2号」及び、「新型コロナウイルス感染症対策に係る既実施取組について」は、会議規則第6条の2第1項第2号に該当するため、公開しないことと決しました。なお、公開しないことと決しました案件については、日程第2の「協議・報告」の「令和元年度 あまっ子ステップ・アップ調査の結果について」の後に審議することといたします。それでは、これより日程に入ります。日程第2の「協議・報告」の「令和元年度 あまっ子ステップ・アップ調査の結果について」を議題とします。提案理由の説明を求めます。桐山学び支援課長。

学び支援課長

学び支援課長でございます。お手元の「令和元年度 あまっ子ステップ・アップ調査の結果について」の資料をご覧ください。「1 調査目的」として児童生徒の学力と学習状況を把握し、一人一人に応じた指導の充実、また、教育施策の成果と課題についての検証と改善を図ることを目的に実施しております。「2 調査内容ごとの人数」ですが、小学1年生から小学6年生までが国語と算数を、各学年3千4百名程度。中学1年生と中学2年生が国語、算数、理科、社会、英語を、それぞれ3千名弱調査を受けております。「3 実施日」ですが、小学校が令和元年12月10日、中学校が令和2年1月10日に実施しております。「4 学力調査の概況」ですが、本調査は学力を4層に分けて行うもので、また、達成率と目標値を定めております。2ページをご覧ください。表1 小学校における達成率と学力層別人数割合ですが、一番左の達成率をご覧ください。1年生の国語であれば74.4%、算数であれば63.4%となっており、この数値は、本調査におけるおよそこの点数を取れば次の学習内容に進むことができる目安の基準を超えた割合です。本調査はベネッセに委託しており、ベネッセ独自に定めた基準を超えた割合となります。2列目以降のA層からD層の割合についてですが、非公表ですが、全国で受けている人数の中で上位から25%ずつにわけており、尼崎市の子どもがどの程度含まれているかを表した数値でございます。例えば、1年生の国語であれば、全国平均とまったく同じであれば、25%であるA層が尼崎市では19.8%、D層であれば、尼崎市では30.3%の児童がおられます。なお、括弧の中の数字は、同一母集団における昨年度との差を示すものです。昨年度の差とは同一母集団ですので同じ生徒が去年よりどの程度伸びたか、どの程度落ちたかを表しております。小学校の数値では、どの学年でもほぼC層D層の数値が減っていることから、低学力であった子が1年の勉強において全国と比べ学力が向上しております。同じく達成率においてもほぼ向上しております。小学校3年の国語と算数の達成率は落ちておりますが、全国的に下がる傾向であり、本市ではC層D層の人数割合は減っていることから全国平均よりは上だが、ベネッセの基準には達していないものです。同様に表2の中学校ですが、1年生の数学は明確に向上しております。つまり、小学校6年生の算数に比べ受験で抜けた子がいるにもかかわらず、数学はかなりの向上が見られます。1年生から2年生にあがるところでは、社会科と理科が下がっている傾向が見られますが、5教科すべてで見るときは横ばいです。2年生になると達成率では数学、社会、理科は下がっておりますが、全国的にも下がる傾向でございます。続きまして、次のページの「5 生活実態調査の概況」をご覧ください。テストの際に生活実態アンケートをと

り、その中で顕著な差が見られた項目を抜粋したもので、質問を「①学びの基礎力、②社会的実践力、③学級力、④家庭学習力」の4つのカテゴリーに分けて分類した結果です。表4のカテゴリー別質問項目例と肯定群回答割合で、例えば①学びの基礎力の項目では肯定群が少なくなっている傾向にあります。また、④家庭学習力の項目も減っている傾向が見られました。次の4ページをご覧ください。ここから学び支援課において分析した内容となります。表5の学力調査と生活実態調査のクロス分析をした際に、「①調べてわかったことをもと、に考えをまとめることができる。」については、学年があがるにつれて開きが大きくなります。「調べてわかったことをもと、に考えをまとめることができる。」という問いに対して、A層の子は「はい」と答える割合が60%以上をキープしておりますが、D層の子は「はい」と答える子が27.8%まで下がっております。つまり、思考力を問うようなものではA層とD層では学年があがるにつれて差が生じるということと課題が見られます。続きまして5ページの「②授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている。」もA層とD層の開きの大きい回答でした。そのため、授業では、教員が知識を伝達するだけの指導でなく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく必要があります。また、その中で新しい学習指導要領が求める思考力・判断力・表現力や学びに向かう力等を育成していく必要があると考えております。続いて(3)【学力調査と意識調査の変化】ですが、小学校41校の中から、平成30年度と令和元年度の学力調査の結果を比較したとき、D層の割合が25%前後まで改善された学校6校と尼崎市全体の意識調査の経年変化を比較してみました。表6をご覧ください。質問項目の「国語の授業で、物語を作ったことがある。」と「数学(算数)の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。」という項目については、6校平均と市内平均では大きな高低差が生じております。今後、尼崎市は、D層の割合を減らすために、基礎的なドリルを繰り返し行うとともに、児童生徒が主体的に学ぶための指導が必要です。また、学びの基礎以外に非認知能力でもある「社会的実践力」や「やりぬく力」の育成や指導を一層伸ばさせる必要があります。さらに、一人ひとりの応じたきめ細かな指導に生かしていきたいと考えております。また、6ページの(4)【学年間のばらつき】についての表をご覧ください。上の表が平成30年度、下の表が令和元年度です。横軸が学校の偏差値、縦軸が学年ごとの差を表す標準偏差でございいます。例えば、8番の学校は、学校の偏差値は平均より高いが、学年間での学力の差が大きいものです。31番の学校は、8番の学校と学校偏差値はほぼ変わらないものですが、学年間の学力においても差がないものです。また、丸で囲っている学校は平成30年度と令和元年度を比較し右下に移動しており、全学年で努力した結果、学力が向上している学校です。この3校は、先程ご説明しましたD層の割合が25%前後まで改善された学校6校のうちの3校で、学校再開後に話を聞きに行き、フィードバックしたいと考えております。26番の学校は右上にあがっており、平成30年度は、1年生から6年生全学年で学力が低かったが、令和元年度はどこかの学年において学力があがったものです。26番のある学年ではD層が0でした。この学校の次の展開としては各学年へ勉強方法や指導方法が波及していくことが重要となります。また、平成30年度より令和元年度の方が真ん中に学校が集中していることが分かります。これは、学校間格差がなくなりつつあるということが読み取れます。以上、「令和元年

度 あまっ子ステップ・アップ調査の結果について」の報告を終わります。どうぞよろしくお願ひ致します。

磯田教育長職務代理者 報告は終わりました。これより質疑に移ります。発言はございませんか。

太田垣委員 各調査において平成30年度と令和元年度との比較を行っているが、良くなっている理由及び悪くなっている理由は把握をされているのか。

学び支援課長 去年1年間でフィールドワークを実施しており、良くなっている学校においては、校長先生をはじめ、学校全体で学力向上の施策に取り組んでいる印象を持っております。また、帯学習や放課後学習においても全先生でしっかり取り組んでいる印象を持っております。

徳山委員 6ページの最後の表は、すべての学校が右下枠に入ればよいか。

学び支援課長 尼崎市での平均であることから、市内全体のばらつきがない場合は真ん中に集中するものです。

徳山委員 この情報は各学校へ伝達されるのか。

学び支援課長 学校名は載りませんが、各学校へ共有されます。校長先生は、自分の学校がどこに位置するかについてわかることとなります。

仲島委員 小学校1年生のD層が多いのはなにか理由があるのか。前年度も似た数値になっているが。

学び支援課長 全国との比較の25%ずつであるので、D層が25点以下というわけではございません。仮に、全国の尼崎市以外の子が80点を取れば、尼崎市の子どもが79点を取ったとしてもD層になります。D層の割合は全国よりも多いですが、大差があるかはわかりませんので、1年間の頑張りでの上の層へいけたのかもしれない。

仲島委員 絶対評価でなく相対評価ですよ。

学び支援課長 その通りでございます。

仲島委員 6年生は英語が追加されるのか。

学び支援課長 今のところ予定はございません。

仲島委員 クロス分析のところで、学年が上がるにつれてA層とD層の差が広がっていくのは課題ですよ。例えば、帯学習や放課後学習で単純な計算や漢字を書くことはできる

けど、考えることはしんどいということですよ。その点は、授業でしっかり勉強しないといけませんし、5ページに「国語の授業で物語を作ったことがある」という質問項目があったが、これは想像力を養うことにもなり非常に大事なことです。

礪田教育長職務代理者 小学校は良い結果が出て、全国平均に近づいてますね。

徳山委員 尼崎の公立小学校から私立中学校へ入学する人数は、どの程度いるのか。

学び支援課長 市外へ転出もございしますが、1ページに人数に明記されておりますとおり、小学校6年生が約3,400人で、中学校1年生が2,900人となっておりますので、その差500人程度になると思います。

徳山委員 その500人がA層やB層にあたるのか。

学び支援課長 お調べしたことはございませんが、その可能性が高いと思われます。

礪田教育長職務代理者 他に質疑はございませんか。質疑がないようですので、本件についての報告は終わります。それでは、ここから非公開といたします。

~~~~~以下 議事の概要は非公開とする~~~~~

礪田教育長職務代理者 以上を以って、本日の日程は全部終了いたしました。これもちまして、尼崎市教育委員会5月臨時会を閉会といたします。

以上、尼崎市教育委員会5月臨時会の議事の全部を終了したので、午後4時58分、礪田教育長職務代理者は閉会を宣した。

尼崎市教育委員会5月臨時会において、以上のとおり議事が行われたことを記録します。